

1人1台端末環境を基盤とした授業改善

浅口市教育委員会×浅口市立寄島小学校5年

2023.11.08

岡山県教育委員会
教育情報化推進室

デジタルとアナログの適切な融合

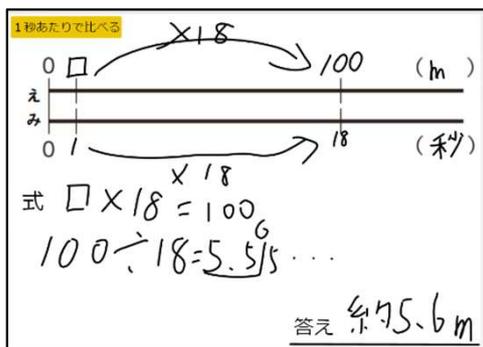
浅口市教育委員会の大平智也 指導主事が、秋田県大館市での授業改善や学力向上に関わる研修及び実践を経て、その成果と浅口市において推進する1人1台端末環境を十全に活用した授業実践を浅口市立寄島小学校の5年生において公開しました。

5年算数「単位量あたりの大きさ」

「速さは、単位量あたりの大きさの考えを用いて表せることを図や式を用いて考え、説明できる」という目標に向け、主に次のようなICT活用に取り組み、参観者に「日常的な活用」のヒントを示しました。

- ①〔導入〕前時の振り返りを全体で共有する（教師が電子黒板に提示）
- ②〔展開〕デジタルで配付された数直線図シートに考えを表す（各児童が2種類の中から選択）
- ③〔展開〕各児童が数直線図シートを示し、思考を交流する（全体共有の場では電子黒板に投影）
- ④〔終末〕本時の振り返りを端末を使って記入する（分かったこと、友達から学んだことを中心に）

※浅口市が導入している「スクールタクト」を使用



児童が考えを表した数直線図シート
考えを表す時間が大幅に短縮された



説明を重ねて行く児童 本時の目標
を達成するための時間が確保された

振り返り 単位量あたりを使うことが大切だね！対応数直線図もマスターできていたね！授業の準備がよくなっていいね。字はきれい！よくできました！

今日の授業で「分かったこと」「友だちから学んだ今日の授業で大切なこと」を中心に振り返りましょう。

どんな単位でも単位量あたりを使えば比べることができる。
また、対応数直線図を使うことでわかりやすく説明できる。
わかりやすく説明できるのは単位量、対応数直線図を使うとどちらがどのようになっているのかが分かる。そして大切。

児童が3分程度で書いた振り返り
赤字部分は提出後の教師からのコメント

1人1台端末を活用した授業では、学習内容がノートに残らないことが課題となることもありますが、各時間で「**何ができるようになるか**」を熟考すると、全ての授業でノートに記すことが最適とは限らない場合もあります。本時では、児童がノートをきれいに書くこと等にとらわれて、考えを深めたり説明をしたりする時間が削減されないようにICTをフル活用し、次時では紙のワークシートで問題を解き、到達度を確認する（事後にノート貼付）計画が立てられていました。学習の過程がノートに残る良さ（アナログ）とクラウドに記録されている良さ（デジタル）を児童が実感し、既習内容を想起するときにはどちらでも適切に活用できることが重要なポイントです。このような学習経験が、児童が学習内容の確実な定着のために「自ら学習を調整」できる基盤となると考えます。

加えて、CBTにおいて、現状は思考の過程や立式、計算等は手元の紙で手書きで行われることから、計画的に「定着状況ウォームアップ」等でCBTの経験を積んでいくことも大切です。

実践者の声

本実践では行いませんでしたが、学習のまとめの段階で、本時の学習で大切な言葉やキーワードを児童が端末を使って入力し、ワードクラウドを活用して分析すると、児童が自らまとめを考えるデータとすることができます。